

Contents

- 02 事業価値創造
粘接着を極める
物と物を“くっつける”デンカの粘接着技術
- 10 人財価値創造
Denkaのダイバーシティ、
エクイティ&インクルージョンの推進
一人ひとりの「自分らしさ」が輝く職場を目指して
- 15 スペシャリストの眼差し
- 16 My Vision
一人ひとりが描く、デンカの未来
- 18 Denka TOPICS

The Denka Way



デンカの
“くっつける”
技術力。

The Denka Way

Winter
2024 Vol.18

発行/デンカ株式会社 コーポレートコミュニケーション部
〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
発行責任者/山本浩之 発行日/2024年1月11日



禁無断転用・転載

Denka

世界に誇れる、 化学を。

その仕事は、未来に新しい価値を提案しているか。
人と地球の明日を幸せにしているか。
私たちが創立以来、追求してきたのは
ほかの誰にもできない、デンカならではの強みを生かして
社会を、世界を、よりよく変えていく挑戦です。

100年を超える伝統と、最新のテクノロジーを融合させ
化学の未知なる可能性を切りひらくこと。
未来のニーズを予測し、まだ見ぬ豊かさを創造すること。

環境・エネルギー分野での先端素材の開発や
ライフサイエンス領域のさらなる推進など
私たちは「世界にとってかけがえない存在」となる
企業をめざし、社員一人ひとりがストーリーを描き
多様化する社会の課題に、誠実に取り組み続けます。

Denka

デンカ株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
www.denka.co.jp

粘接着 を 極める

物と物を“くっつける” デンカの粘接着技術

物と物を付ける材料には、粘着剤と接着剤があります。
デンカはその双方について、
独自の技術を生かした卓越した製品を持っています。
今回は、半導体からスピーカー、
カメラのレンズまで、さまざまな製品に使われている、
粘接着のスペシャリティ技術にフォーカス。
製品の色や魅力に迫ります。

接着・粘着とは？

接着と粘着には、「物をくっつける」という共通する機能があります。接着剤は、貼り合わせる直前は液状で、貼り合わせたのちに硬化(固化)するものを指します。一方、粘着剤は常に濡れた状態を保っている性質があり、つくことも、剥がすこともできるという特徴を持っています。

デンカの接着の機能を持つ製品として「ハードロック」の高機能接着剤、粘着の機能を持つ製品として「エレグリップ」をはじめとする各種テープなどがあります。

1 化学反応型 化学の力で硬化を促す

1種類ないしそれ以上の化学物質が反応することによって硬化する接着剤です。非常に高い接着力や高い耐熱性を有しますが、接着力が発現するために硬化剤の混合や、時間、熱、光などが必要になるという課題もあります。

- デンカの製品
- ハードロック SGA
 - ハードロック OP/UV
 - 開発品:高耐熱仮固定材 TBM

ハードロック OP/UV

高耐熱仮固定材 TBM

粘接着の仕組み

接着剤・テープの固化や接着方法によってさまざまな方式があります。
デンカの製品に関わる粘接着の仕組みについて紹介します。

2 併用反応型 2つ以上の仕組みを活用

紫外線硬化や熱硬化、感圧など2つ以上の方式で硬化する接着剤です。感圧型の特徴である初段階からの接着力と、反応型の特徴である高い接着力の両方を兼ね備える材料です。

- デンカの製品
- エレグリップ
(バックグランドテープ、ダイシングテープ)

エレグリップ

3 感圧型 押すことでくっつきを発現

常温で圧力を加えることで接着するタイプの接着剤です。貼り合わせ直後から接着力を発現することが最大の特徴です。一方で、状態変化(硬化、固化)しないため、接着剤と比べると接着力は弱く、また高温になると接着力が著しく低下します。硬化、固化のための追加工程がなく貼り合わせが簡単なことから、工業製造のプロセスや包装などさまざまな用途で利用されています。

- デンカの製品
- ビニテープ
(電気絶縁・ワイヤーハーネス結束用など)
 - カラリヤンテープ(梱包包装用)

ハードロック SGA

ハーネス用ビニテープ

粘接着製品に見るデンカの技術力

固めやすく剥がしやすい。

熱にも強い。

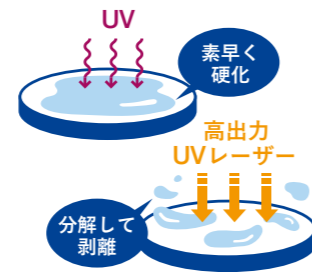
開発中!



高耐熱仮固定材 TBM

半導体材料の加工用途で期待される開発品!

半導体を製造する過程で、ウエハと呼ばれるシリコンの板を加工する工程があります。ウエハを1mmにも満たない薄さにしなければならないため、加工や持ち運びがたいへん困難です。そこで活躍するのが、高耐熱仮固定材の「TBM」。加工の際に土台となるガラス基板への接着・剥離が容易なだけでなく、パワー半導体の製造に必要な真空高熱処理に対応する高い耐熱性も持ち合わせています。

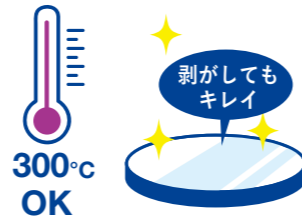


光を当てて早く固まる、簡単に剥がせる

UVを当てると硬化する特性を活かして、瞬時に物質同士を接着します。剥がす際は、高出力のUVレーザーを当ててことでTBMが分解し、簡単に剥がすことができます。

耐熱性と剥離性を両立

接着剤において、耐熱性と剥がれやすさはトレードオフの関係。しかし、デンカのTBMは300°Cの熱に耐えられる強さと、接着剤が残りづらいという高い剥離性を両立しています。

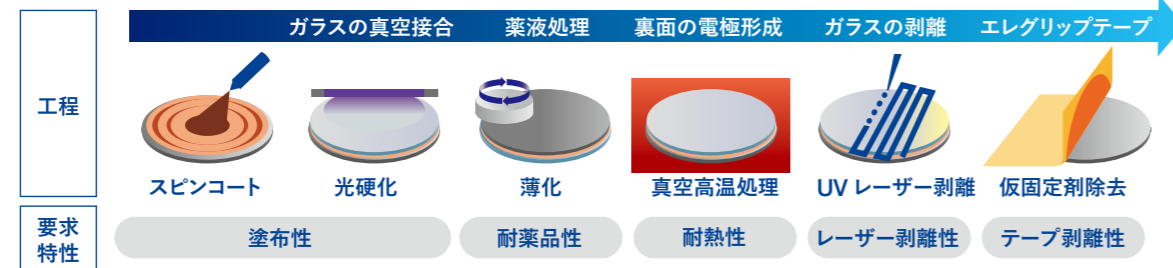


サステナブルな粘接着剤

接着剤を剥がすためには、熱を加えたり、溶剤を使用したりしますが、TBMを使用すればその必要はありません。UVレーザーを当てるだけなので、接着物に余計な負荷をかけることはなく、環境にもやさしい製品です。

パワー半導体の製造プロセスに適合

TBMは、パワー半導体のデバイス裏面の電極形成に適した製品です。複数の要求特性をクリアしています。



用途 パワー半導体のウエハ加工など

光を透過し、

紫外線で固まる



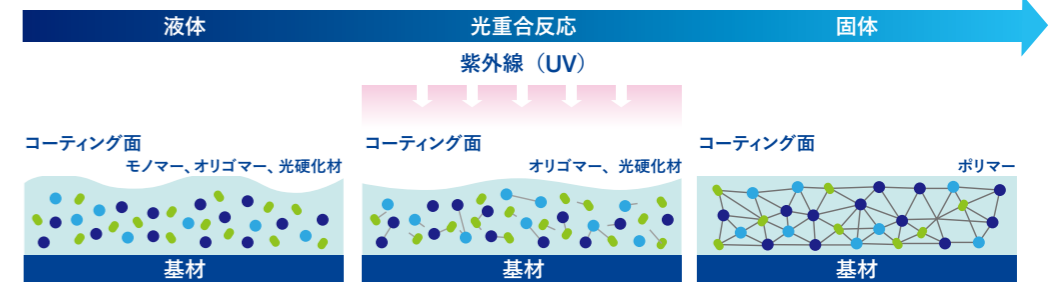
ハードロック OP/UV

レンズやカメラ、光学製品製造のマストアイテム

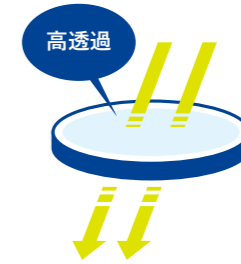
紫外線を照射することで硬化させる1液型の接着剤です。OPグレードはデンカの独自技術で生まれたエン・チオール樹脂系接着剤で、特に光学特性に優れ、カメラモジュールの光学レンズやプリズムなどの貼り合わせに使用されています。競合製品が他に見当たらないオンリーワンの製品です。UVグレードは、アクリル樹脂を使用した接着剤で、レンズと筐体の接着やディスプレイ封止剤などに使用されています。

接着の仕組み

紫外線を照射することで、分子量の小さいモノマーが結合し、分子量の大きいポリマーに変化する光重合反応が起こります。その際、材料の融点が増し、液体から固体に変化することで硬化が起こります。



用途 カメラレンズ、プロジェクターレンズ、ディスプレイ、大型テレビ、ノートパソコン、電子部品など



光の路を妨げない、ハイエンド接着剤

硬化の収縮が少なく柔軟性があるため被着体が歪みにくく、透過率や屈折率はガラス並み。耐熱性や耐寒性が高いのも特徴です。紫外線を照射しなければ硬化が始まらないため、レンズ装着の際の光軸合わせが行いやすいのもポイント。精密な固定が必要な光学製品の接着ニーズに応える製品です。

UV照射で速硬化、作業効率は抜群

紫外線を照射するとわずか数秒で接着可能。ラインの短縮などお客様のものづくりの現場の省力化に貢献します。1液型(他の液体を混ぜない)であること、溶剤が不要なことも支持されています。



「薄膜封止材」という新たなニーズ

ハードロック OP/UVの製品特性を生かして、小型有機EL向けのUV硬化型接着剤(F-OLED封止材)を開発し、有機ELディスプレイ向けに販売しています。有機EL層・電極を水蒸気や酸素からシャットアウト。発光素子の劣化を防ぎます。

粘接着製品に見るデンカの技術力

60年の歴史を誇る

主力製品

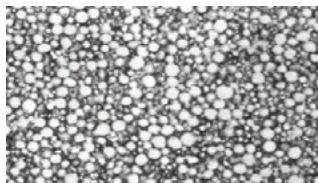


ハードロック SGA

さまざまな工業用途で活躍

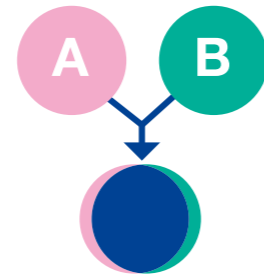
1964年にデンカが世界に先駆けて開発した、2液常温硬化型の第2世代アクリル系接着剤 (Second-Generation Acrylic adhesives) です。金属の接着と相性がよく、エラストマーを複合化したことで高強度、高靱性、高耐久性を実現。ネジやボルト、溶接など従来の接合方法の代替手段として、発売以来、多くのお客様にご愛顧いただいています。

接着の仕組み



ハードロック硬化物の高次構造 (TEM写真)。白い部分がアクリル、黒い部分がエラストマー。

ハードロック SGA の硬化物の表面には、アクリルとエラストマーが混在する「海島構造 (モルフォルジー制御)」が形成されています。この構造が、高強度かつ耐衝撃性や粘り強さの発現につながっています。

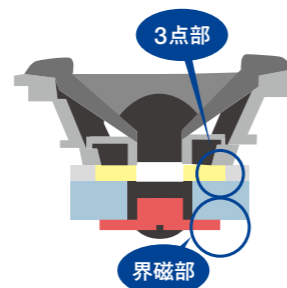
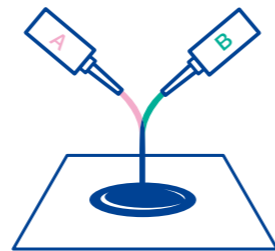


接着を始めるA剤と硬くするB剤

ハードロック SGA の2液は、A剤・B剤どちらもアクリルモノマーとエラストマーを主成分としています。A剤は重合開始剤を、B剤は硬化促進剤を配合しています。主成分が同じ組成であることから混ざりやすく、硬化しやすいのが特徴です。

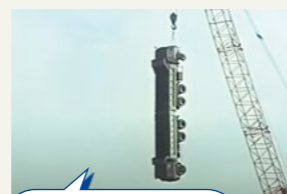
ラフな混合でもOK、現場の活用シーンにフィット

お客様の現場で使いやすいこともハードロック SGA の大きな魅力です。室温で短時間 (1~15分) で早い段階から硬化し、厳密な計量配合をしなくても安定した接着力を発現します。また、界面の溶剤脱脂工程が不要であることから表面処理工程を簡略化できます。



この製品がなければ「世界から音が消える」?

多様なシーンで使用されているハードロック SGA ですが、中でもスピーカーの界磁部や3点部の接着用途としては絶対的なシェアを確立しています。もしハードロック SGA という製品がなければ、世界中の多くのスピーカーが鳴らなくなってしまうといっても過言ではありません。



2台の大型トラックを接着して引き上げ!?

<https://www.youtube.com/watch?v=vzxUeTwxdrQ>

ハードロック、圧巻のCM

1970年代に放映され、カンヌ国際映画賞テレビCM部門でグランプリを受賞したハードロックのCMがYouTubeで公開されています。驚異の接着力をぜひご覧ください!



用途 スピーカー (自動車など)、モーター、エレベーター補強板、ゴルフクラブ (ヘッド・シャフト) など

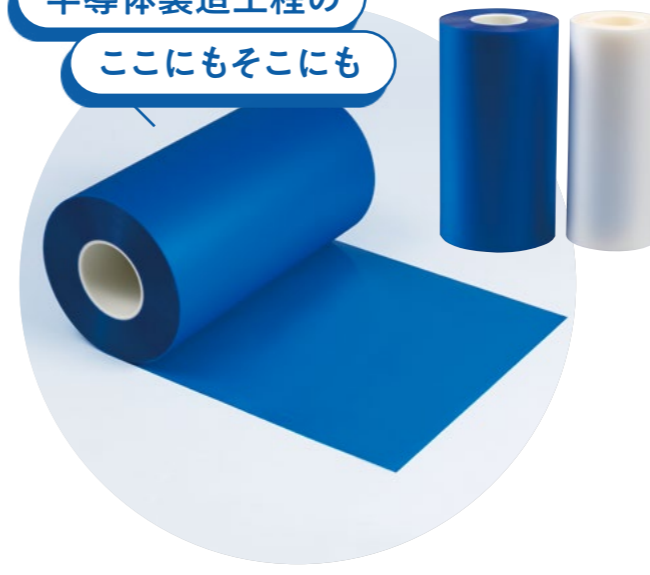
エレクトロニクス関連製品を生産する渋川工場

デンカ 渋川工場では1976年にハードロックの製造を開始。現在では電子材料の中核拠点として、電子回路基板・放熱部材・エミッター・構造用接着剤・半導体プロセス関連製品等のエレクトロニクス関連製品を生産しています。



半導体製造工程の

ここにもそこにも



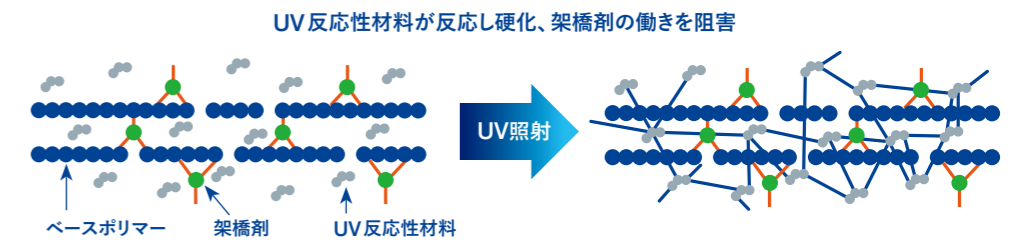
エレグリップ[®] バックグランドテープ ダイシングテープ

回路を守る、仮固定する2つの用途に

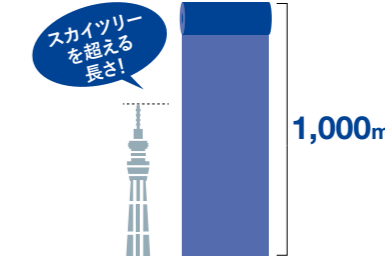
半導体の研削・切断プロセスで使用する粘着テープです。バックグランドテープとダイシングテープの2つの製品があります。前者は半導体ウエハの逆側を研磨する際に回路面を保護するのに用いられ、後者はウエハを個片化していく際にテープ上に仮固定するために使用されます。

接着の仕組み

UV硬化型のダイシングテープは、架橋剤のほかUV硬化剤の材料を入れて設計しています。UV反応材料がUVにより反応し成分同士が複雑に結びつくことで、粘着剤層が硬化されることから粘着力が失われ、剥がしやすくなります。



用途 半導体、スマートフォン、車載センサーなど

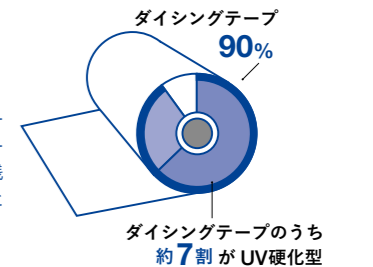


長さ1,000mを 一気に製造!

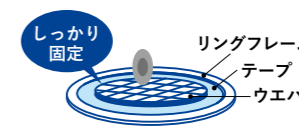
エレグリップテープは、基材フィルムにアクリルポリマーの粘着剤を塗布し、粘着剤を保護する剥離ライナーを重ねた3層構造になっています。幅1m、長さ1,000mのジャンボロールで製造し、お客様の要望に応じて裁断して出荷しています。

約9割は切削工程用の ダイシングテープ

デンカが製造するエレグリップテープの約9割以上がダイシングテープ。うち7割がUV硬化型で、糊残りのより少ない製品を、お客様と一緒に開発を進めています。



切る (ダイシング)



取る (ピックアップ)



「切る」にも「取る」にも しっかり対応

ダイシングテープはウエハを個片化するにはしっかり固定し、チップをピックアップするには簡単に剥離する機能が求められています。

粘接着の事業価値をお客様に

研究開発、製造、営業のそれぞれの立場で携わる社員、そして全体をまとめる山田副部門長に、デンカの粘接着製品の魅力と製品に関わるやりがいについて、話を聞きました。

研究開発



粘接着技術で世界をより良くする

電子・先端プロダクツ部門 電子材料研究部
ハードロック研究グループリーダー
星野 貴子

渋川工場で、高耐熱仮固定材TBMやアクリル系接着剤ハードロック全般の研究開発を担当しています。研究開発という業務は思うようにいかないことが多いです。思い通りの特性が出せなかったり、開発が進まなかったり。そんなときこそ、前向きな気持ちで改善を続け、より良いものを作ろうと心掛けています。お客様とこまめにコミュニケーションをとり、困りごとや改善点をお聞きし、そのニーズに応え、形にしていくために、開発段階から各部門との共有を頻繁に行い、デンカー丸となって新製品の製品化を目指しています。今の私の目標は、自分が携わっている粘接着剤の技術で世界をより良くすること。デンカの粘接着剤は直接店頭に並ぶものではありませんが、最終製品として世界で流通するあらゆる製品の加工の部分で欠かせない存在にしていきたいです。まずはTBMを一日でも早く製品化させ、現在需要が高まっているパワー半導体の成長に貢献していきます。

製造



届けたいのは「デンカ品質」の安心

渋川工場 電子材料部 エレグリップ課 係長
鹿野 和典

約40人の従業員と一緒に、エレグリップの製造を担当しています。300kgを超えるエレグリップを取り扱い、ロールの回転体も大きく、製造においては常に安全面を最優先に安定生産に努めています。また、労働生産性を高めるため、梱包などの工程の自動化も重要なテーマとして改善を進めています。半導体加工は高度化、精密化しており、お客様のエレグリップテープに対するご要望も、より高いレベルになっています。研究部門や営業部門と連携し、お客様の個別のニーズに応えた生産設備の導入や製造手法の革新を進め、製品の進化を図ることが、スマートフォンをはじめ身近な電子部材の進歩に繋がると考えています。今後もプライドを持って、デンカに相応しい製品品質でのものづくりを進めてまいります。

営業



機能を複合化し、新たな価値の提供を

電子・先端プロダクツ部門
高機能粘接着材料部
水野 真那

ハードロック SGA の営業を担当し、自動車メーカー様やゴルフクラブのメーカー様などがお取引先で、最近ではEV車向けのモーターなどでの引き合いが増えてきています。

ハードロック SGA は、耐熱性を高めることによる高物性化や主剤に着色したりといった、お客様のご要望を受けて、新たな機能を持つラインアップを拡充してきました。さらに最近では、O-LED封止材などに代表される、機能の複合化による価値を提供する挑戦も始まっています。

ハードロックは多くのお客様に長年支持されてきた製品だからこそ、既存領域のお客様だけでなく、基盤技術を持ってEV・新ディスプレイ・半導体といった事業領域に展開できるよう努めてまいります。



電子・先端プロダクツ部門
副部門長
山田 雅英

デンカの技術力で、粘接着に「プラスα」を

デンカの粘接着材技術は、お客様の要望に合わせることで高い機能を有する粘接着剤を提供できることが最大の特徴です。

粘接着剤は、貼り合わせる材料、貼り合わせる条件によって選定されます。すなわち、非常に多岐にわたる粘接着剤が世の中には存在し、同用途で競合他社が多く存在することになります。この激しい競争を勝ち抜くため、スピード感のある製品開発が今後ますます必要になってくると考えます。粘接着剤に関わる従業員の皆さま方には、今まで以上にお客様の声に耳を傾け、現場に足を運び、一人ひとりが自ら考え、直ちに行動することを常に意識していただきたいと考えます。

お客様の要望を先回りできるような粘接着剤をどうすれば開発できるのか。具体的には接着剤としての機能(=接着力)のほかに、もう一つ新たな機能を付与することが優位性の発揮につながると考えています。

今後、必ず要求される機能としてサステナブルであることが挙げられます。サステナブルな粘接着剤とは何か。様々な答えがあると思いますが、デンカのサステナブルに対する考えを体現できるような、粘接着剤開発を皆さまと協力し実現していきます。

これからもお客様の要望に即した粘接着剤をタイムリーに、より多くのお客様に提供しつづけることで、お客様を通じ、よりよい社会の実現に貢献してまいります。

デンカで輝く、 わたらしい働き方

デンカでは、多様な個性を持った社員がさまざまな職場で活躍しています。それぞれがどのようにして「自分らしく」働いているのか、インタビューを通してお伝えします。



青海工場
エラストマーインフラソリューション部門
有機材料研究部 (CR)
くまがい ゆうし
熊谷 雄志

育児休業取得経験者社員として

業務の効率化をより意識して
仕事と育児の両立を目指す

第二子の里帰り出産により、上の子どもをお世話するため、一カ月の育休を取得しました。私の周りには育児休業を取得した男性社員がいなかったため、取得に対する不安もありましたが、職場の皆さんは育休の取得に対して前向きに受け入れてくれました。復職した今でも、周りの方のサポートのもと、時差出勤や在宅勤務などの制度を活用しながら育児と業務を両立しています。育休を取得してからは、特に業務の効率化を意識するようになりました。子どもの送り迎えをしたり、育児に積極的に参加したりするためにも、いかに就業時間内に業務を遂行するかを常に考えるようにしています。

第一子の育児のときは妻に任せきりだったので、今回改めて育児の大変さを実感しました。今回の育休で出生後の育児を共に行うことができたのは、現在の家庭環境や家族との信頼関係の構築にも良い方向に働いていると思います。



電化(上海)管理有限公司
機能樹脂部 高級経理
ほん ろんなん
洪 龍男

外国籍の管理職として

現地の情報を届け
よりよい製品・用途の開発に
貢献する

私はDCS設立の2004年から一貫して中国全土を対象に、千葉工場とDSPL(シンガポール)で生産する樹脂製品の販売と技術フォローを行っています。主に現地のマーケットや競合品の情報を収集し、本社や製造拠点に展開。また、現地のお客様から潜在的なニーズを引き出すことで、新規製品や新規用途開発の一端を担っています。日本の拠点とやり取りをする際は、上下関係や仕事の進め方など日本ならではの文化に苦労することはありますが、その都度上司に相談することで、一つひとつ乗り越えています。世界的にサプライチェーンが変化している中、今後はよりグローバルな視点をもってマーケティング活動を展開することで、デンカのより一層の飛躍に貢献していきたいです。

用途に応じたマーケット情報や、粗原料を含めた競合品情報を収集し、定期的に本社やデンカシンガポールDSPLに報告することで、新規製品・新規用途の開発につなげます。直近では、環境にやさしいサステナブル樹脂の需要動向を確認し、当社製品の採用促進活動を行っています。



新事業開発部門
デンカイノベーションセンター
先端高分子研究部 GL
ごとう ゆか
後藤 由賀

経験者採用の管理職として

技術を生み出し、つなぐことで
新たな価値を探求し続ける

前職は精密機器メーカーに勤務。そこでは基礎研究から経営企画まで、幅広い業務に取り組むことができました。しかし、自分が携わりたい技術開発からは遠ざかっていることが気がかりでした。そんなとき、デンカが研究職を募集していることを知り、100年以上続く化学メーカーであることや、デンカが持つ技術や製品、そこで働く技術者に魅力を感じ入社を決意しました。入社して感じた印象は、過去にとらわれることなく、常に新しい挑戦を続けているということ。研究者の探究心を伸ばす自由な雰囲気の中で、これまでのキャリアで得た経験も活かしたいと思っています。また、新たな技術を開発するだけでなく、技術や知識、アイデアをつないでいくことで、新しい価値を生み出していきたいと考えています。

現在グループには16名の研究者が在籍していますが、その将来像は多様です。会社のミッションを達成すると同時に、一人ひとりのキャリアビジョンをよく理解し、適切な育成を行うことも私の責任であると考えています。



電子・先端プロダクツ部門
事業推進部 課長
つるだ
鶴田 くみか

経験者採用の管理職として

それぞれが力を発揮し、
同じ方向へ進んだ先に
新しい価値の創出が待っている

私は現在、事業推進部にて新製品開発のマーケティングやプロジェクトマネジメント、営業部門のビジネス戦略立案のサポートに携わっています。これまで日系・外資系化学メーカーで主に営業とマーケティングを担当していました。その中で、幅広い分野に採用される製品を取り扱っていたこともあり、各業界の情報を収集してきたことが、現在の業務に活かされていると感じています。新たな価値の創造は一人の力では難しく、社内外の方々の協力のもと、全員が同じベクトルに向かって進むことで達成することができるため、私自身も最大限のパフォーマンスを出せるよう学び続け、周囲の方と双方向のコミュニケーションができるように意識していきたいと思っています。

デンカは、主体性を持ち行動することに対して上司、周囲の方々も理解を示しサポートしてくれる環境です。この環境下で新たな「価値」を提供できる製品開発に携わることで、社会の課題解決に貢献していきたいと考えています。





世界で役立つ接着剤の開発を目指し、歩みを進めていく

半導体の製造過程で使用される、次世代の接着剤として注目が集まる高耐熱仮固定材「TBM」。その開発と量産に携わる星野は、日々TBMのユーザーとなるお客様と対話を重ね、お客様が求める製品を目指して開発を進める。

より質の高い製品の開発を目指し、星野は自身の情報や考えを周りに共有することを心掛けているという。ときには立ち止まってしまうときもあるが、そんなときは同じ部署のメンバーや、上司、関連部署の方など、こ

れまで出会ってきた、たくさんの仲間たちの意見を参考に。「自らが動くことを意識していますが、一人で製品開発を行うことはできないですし、デンカには声を挙げると助けてくれる人がたくさんいる。一人で悩むのはもったいないんです」と星野は語る。

TBMの上市に向け、そして新たな接着剤の開発を目指し、歩みを進める星野。「接着の技術で世界をより良くしていきたい」。産業の成長に寄与する接着剤を世に送り出すため、仲間たちの後押しを受けて走り出す。

【高耐熱仮固定材「TBM」】

UVを当てることで接着・剥離が自由自在。耐熱性も持ち合わせており、半導体材料の製造工程で活躍が期待される開発品。



Specialist

電子・先端プロダクツ部門
電子材料研究部 グループリーダー
ほしの たかこ
星野 貴子

2008年入社。一貫して接着剤の研究および開発に従事する。2022年から現在の電子材料研究部に在籍し、TBMやハードロック全般の開発に携わる。



顧問 なかた 中田 るみ子

大学卒業後エッソ石油に入社し、以来一貫して人材育成に携わり、現在は、協和キリン株式会社社外取締役。2022年からはデンカの顧問として、外部の視点から人事面における支援をおこなう。

「化学の力で世界をより良くする」ために ダイバーシティが生み出す力が必要です

大切なのは、 誰もが活き活きと働ける職場づくり

今はどの企業もダイバーシティの推進に取り組む時代。その中で、メーカーが抱える最大の問題は現場での業務です。工場では力仕事があれば、夜間の勤務も発生するため、女性やシニアの人財が定着しづらいという課題があります。特にデンカのような化学系のメーカーは暑熱の現場もあり、人財の確保がより難しくなると言えるでしょう。こうした状況の中で、デンカは「DE&I」、特に「Equity」の考え方がしっかりしているのは素晴らしいと思います。工場などの力仕事が必要とされる現場では、従業員の皆さん一人ひとりがEquityの重要性を理解し、さまざまな人が力を発揮できる職場環境づくりに取り組むことが重要だと考えているからです。

私が以前、人事所管役員を務めていた化学メーカーでは、デンカと同じような課題を抱える中で、女性が働きやすい職場をつくるために現場の職場環境の見直しに取り組みました。そこでは女性が働く際に危険だと思われる部分や、安全に働くために必要なものを洗い出し、設備の機械化を取り入れるなどして一つずつ課題を解消。大変な道のりでしたが、結果的に女性を受け入れやすい体制を実現することができました。こうした取り組みは、女性やシニア人財だけでなく、そこで働くすべての従業員の働きやすさにもつながる重要なことだと感じています。

日頃のコミュニケーションが 「DE&I」推進のカギ

ダイバーシティは、性別や年齢、国籍といった見た目の違いだけではなく、考え方の違いや、その人がどのようなキャリアを歩み、どのようなことを経験してきたのかということも含まれます。デンカにもたくさんの人たちが働いていて、その考え方は千差万別です。例えば、小さい子どもがいる社員に出張の仕事は振らないことを、ありがたいと思う人もいれば、「なぜチャンスを与えてくれないのか?」と思う人もいます。大切なのは、決めつけずにその人の希望や考え方を聞いておくこと、そして本人は周りの人たちと日頃からどのように働きたいのかよく話し合い、お互いに理解することです。またそれぞれの事情もあるので、なるべく一人で抱え込まず、自分から周りに伝えていくことも必要です。

みんながみんな同じ考え方をして反対意見も出なければ、物事は早く進むと思います。その逆で、ダイバーシティを推進することは労力も時間もかかります。でも、多様な背景や考え方をもちた人たちがいるからこそイノベーションは生まれるし、想定外の事態に対応することができる。これから10年後、20年後の世界はどうなっているのか想像もつきません。先行きの読めない中で、デンカが生き残って活躍する、そして化学の力で世界をよりよくするためにも、ダイバーシティを推進する必要があるのです。

My Vision

一人ひとりが描く、デンカの未来

毎号テーマを変えて、デンカで働くさまざまな役職・世代・拠点の方にそれぞれが描く未来について伺います。

【テーマ】

あなたが目指すスペシャリストとは？ Part.3

“ What kind of specialist do you aspire to be? ”



探究心
あふれる人

青海工場
青海エンジニアリング部 電気計装課
いがらし はな
五十嵐 華さん



最大の武器は
自分らしさ

千葉工場
M30プロジェクト推進部 IP・SCR課
いちみ はる
一見 晴さん



Shibukawa Plant

成長を止めない
不屈の精神

渋川工場
電子材料部 放熱材料課 放熱材料係
ちぎら ひかる
千明 光さん



フレキシブルに
動く

大船工場
第一製造部 テープ・フィルム課 テープ・フィルム係
しがの みか
志賀野 美香さん



世界をリードする
技術力

伊勢崎工場
第一製造部 カバーテープ課 原反係
たかの あらた
高野 新汰さん



治療分野の
イノベーター

五泉事業所
G47Δユニット
みずぬま えり
水沼 絵理さん



真摯と親身

大阪支店
エラストマー・無機製品課
たかやま しほ
高山 純穂さん



持続的なイノベーション

名古屋支店
電子材料課
まきの ひであき
牧野 英明さん



“Helping to manage
Human Resources,
Accounting, General
Affairs, Logistics and
IT related matters
properly.”
人事、経理、総務、物流、IT
関連等の適切な支援

デンカコーポレーション
コーポレート部門
アンジー・メイ
Angie Mei さん



トレンドキャッチャー

デンカ韓国株式会社
ジョンソン・ユン
Jung Sung Yun さん



“A person
committed to
continuous learning
and development”
継続して学習と開発に
取り組む人

デンカシンガポール DAPL
リャン・コー・フアット
Leang Kee Huatさん



“ Aspiring to be a
“specialist” who
makes the world a
better place ”

9-12
Sep. Dec.Pick Up
Sep.デンカグループの“現在”と“目指すべき姿”を伝える
「デンカレポート2023 統合報告書」を発行

デンカレポート制作に携わったメンバーに今回のポイントを伺いました。

ごばやし むつみ
小林 睦美さん

経営企画部

デンカグループの企業価値創造の姿をわかりやすくお伝えるために、関係部署との連携をとりながら作成を進めました。

ふじまき よしゆき
藤巻 良之さんポリマーソリューション部門
事業推進部 課長

事業を通じたデンカの社会貢献の「未来」と「可能性」をステークホルダーにわかりやすく伝えるよう意識しました。

すずき けん
鈴木 憲さん財務戦略部
部長

資本収益性改善による企業価値向上の取り組みについて、具体的な内容も交えてお伝えするよう心がけました。

ごとう ようすけ
後藤 陽介さんサステナビリティ推進部
カーボニュートラル推進課
課長

環境対応に関するコンテンツを取捨選択し、全体のバランスをとるのに苦労しました。

世界に誇れる、化学系。
Denkaデンカレポート2023
統合報告書

デンカレポート(統合報告書)は、デンカグループの企業価値創造の姿を、ステークホルダーの皆さまに発信するための媒体です。主に「ステークホルダーの皆さまに事業活動への理解と信頼を深めていただくこと」「中長期的な視点での投資を喚起し、資金調達につなげること」を目的に、年に1回発行しています。

デンカレポートは、ステークホルダーの皆さまからのご要望や国際的な情報開示基準をもとに、必要な情報であるかを検討した上で、毎年項目の追加や内容の充実に取り組んでいます。今号の見どころは「社長対談」「私たちのVision～若手社員のメッセージ」「ESG management」。いずれもデンカレポートでしか見ることのできない情報です。

デンカグループが、今何を目標しているのか、どのようにして「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる。」のか、その価値創造のストーリーを、デンカレポートを通じて掲載しています。ぜひご覧ください。

「デンカレポート2023」は、見どころが盛りだくさん

デンカレポート
Webページ

10P～ 社長対談

デンカは2023年4月、これまで指針としてきた「The Denka Value」(企業理念)、Denkaの使命、行動指針を、より未来を見据えた「ビジョン(コアバリュー、パーパス、ミッション)」へと進化させました。このビジョンをどのように活用し、持続可能な成長を果たしていくのか。独立研究者/著作家/パブリックスピーカーの山口周氏と、今井社長が、これからの企業や、デンカに必要な視点について語ります。

16P 私たちのVision
～若手社員のメッセージ

自分自身にとっての「ビジョン」とは何か? 「ビジョン」を達成するために、どのような姿を目指すのか。若手社員10名の自身が思う「ビジョン」について表明していただきました。

51P～ ESG management

Mission 2030の成長戦略として企業の成長を支えるESGの取り組みについて注目のトピックをお伝えするとともに、山本会長や、担当役員によるメッセージ、社外取締役による座談会、従業員の声など、多角的な視点で情報をお届けします。



Sep.

VLPT ジャパン、BIKEN 財団、デンカ、
季節性インフルエンザに対するレプリコン
(次世代mRNA)ワクチンの共同研究契約を締結

VLPT ジャパン、BIKEN 財団、デンカは、季節性インフルエンザに対する次世代mRNAワクチンの共同研究契約を締結。国内のインフルエンザ患者数・受診者数は推定約1,000万人、年間死亡者数は約1万人とされている。ワクチンの製造には発育鶏卵の不足や、製造期間などの課題があるが、本共同研究により、VLPT ジャパンが保有するレプリコン技術を改良し、新たなインフルエンザワクチンの開発を目指す。



Oct.

アセチレンブラック製造販売事業を行う
合弁会社設立および生産プラント建設投資決定

デンカは、SCG Chemicals Public Company Limited (SCGC社)と共同出資によるアセチレンブラック製造販売事業の合弁会社設立とタイでのプラント建設を決定。アセチレンブラックは高純度で優れた導電性を持っており、xEVのリチウムイオンバッテリーなどに使用され、需要が増加している。デンカは、国内外3拠点でアセチレンブラックを製造しており、タイでの年間11,000トンの生産能力を有するプラント建設により、さらなる供給の安定を図る。



Oct.

復興支援酒「tumugu」
無料試飲イベント開催

三井不動産株式会社の協力により、日本橋三井タワーのレストラン「わたす日本橋」にて、デンカがプロデュースする復興支援酒「tumugu」(日本酒)の無料試飲イベントを開催。デンカは、東日本大震災の被災地復興サポートとして、事業を通じた復興支援、ボランティア活動に参加してきた。そのつながりから、岩手県花巻市の川村酒造店の協力のもと、「tumugu」を製造。南三陸町で生育する酒米ひとめぼれには、当社が製造する肥料「アヅミン」と「とれ太郎」が使用されている。



Nov.

日本陸連
群馬県で小学生向けの陸上イベント実施

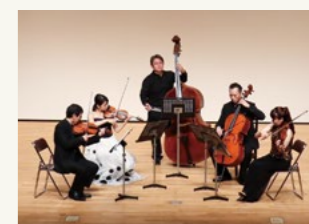
11月23日、「Denka presents 目指せ、陸上スペシャリストへの道!～レジェンドたちによる子ども走り方教室～」を開催。健康福祉の増進とスポーツ振興を目的に、渋川工場・伊勢崎工場を有する群馬県の皆様に、陸上競技に触れ、身体について学び動かす機会を創出すべく企画。ゲストは女子100m・200m日本記録保持者の福島千里さんと、ブダペスト2023世界選手権男子リレーに出場した柳田大輝選手。当日は51名の子どもたちが参加した。



Nov.

「Denka presents 新日本フィルハーモニー
交響楽団スペシャルコンサート in 市原市」を開催

11月19日、千葉県の市原市市民会館にて市原市市制施行60周年記念「Denka presents 新日本フィルハーモニー交響楽団スペシャルコンサート in 市原市」を開催。本取り組みは、教育・学術・文化の振興および地域貢献を目的としており、デンカの製造拠点である千葉工場を有する市原市の皆様に、気軽に本格的なクラシック音楽を楽しんでいただける機会を企画し、市原市が後援している。当日は203名を動員し、大好評のコンサートとなった。



Nov.

IR 優良企業賞2023において
「“共感!”IR賞」に選定

デンカは、一般社団法人日本IR協議会主催の「IR 優良企業賞2023」で「共感!”IR賞」に選定された。本賞は積極的なIR活動の共有などを目的としており、2023年は「IR部門の人材育成とパワーアップのための取り組み」をテーマに199社中21社が選定。「投資家の考えや意見を経営計画に反映する仕組みが導入されている」「経営計画策定の段階で、市場の考えを反映できる議論の機会を作るのは理想的」などの投票者評価から、今回受賞に至った。

2023
“共感!”IR賞
member of
Japan Investor Relations Association